

目指せ咬合調整の少ないクラウン

一般的にクラウンの制作は間接法で行われています。現在では印象材や模型材等の進歩と、各作業行程における術式の見直しなどから、精度の高いクラウン制作が可能となりました。

ところが、作業模型上では上下残存歯と同じ高さに作ったクラウンが、咬合調整により隆線がなくなるほど削除されることがあります。調整後にクラウンの咬合面が面接触となった場合は、支台歯と対合歯に過重負担を掛けることになるため、点接触に修正しなければなりません。

間接法で制作されたクラウンは、200～300ミクロン咬合が高くなると言われています。高くなる要因として、1.人為的な問題、2.材料の問題、3.生体の問題が考えられます。これらの要因が少しでも増加すると、咬合の高いクラウンとなり、歯科医師が行う口腔内での咬合調整に多くの時間が必要となります。

今回は、歯科医師の行う咬合調整が微調整で終わるには、歯科技工士としてどのような事項を注意すると良いか、基本的な注意事項を臨床例と共に述べたいと思います。

皆様の明日の臨床技工にお役に立てれば幸いです。

遊亀 裕一



略歴 (ゆうき ひろかず)

1977年：日本大学歯学部付属歯科技工専門学校卒

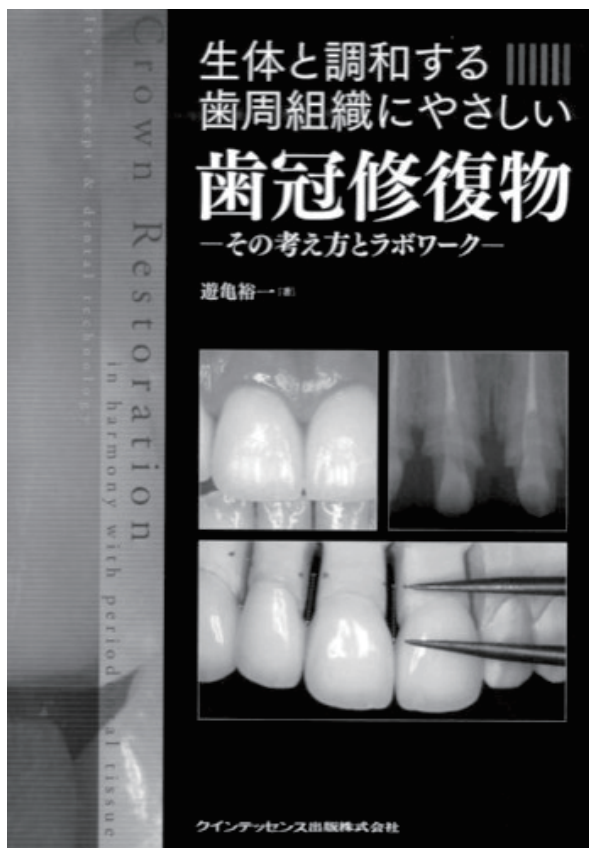
1988年：横浜市にて(有)山手デンタルアート開業

2006年：明倫短期大学臨床教授就任(現在に至る)

2009年：文部科学省委託事業・潜在的歯科衛生士の再就職促進研修会講師

2010年：全国歯科技工士学校教員協議会.研修会講師

現在：日本歯科色彩学会理事、日本顎咬合学会指導歯科技工士、日本歯科審美学会会員、日本臨床歯科補綴学会会員、Wクリック会員、JDA正会員、京セラメディカルセミナー講師、GCセミナー講師



主な執筆

*ラボサイドへの情報伝達-いかに補綴のイメージを共有するか- (共著) 歯界展望.2003年10月

*補綴主導型インプラントとその技工 (共著) QDT別冊YEAR BOOK.2003年

*咬合調整の少ないクラウンの作り方.デンタルダイヤモンド.2003年11.12月

*デジタル画像により様変わりする歯科技工士への情報伝達 (共著) 日本歯科評論.2004年5月

*前歯部歯冠修復における「レジンガム」応用テクニック.日本歯科評論.2005年9.10月

*みんなでいっしょに歯周補綴 (共著) 歯界展望.2008年4.5.6月

*FUNDAMENTALS of Esthetic Dental Technology審美歯科技工の原理原則 (共著) 歯科技工別冊.2009年

*診療室・技工室から補綴臨床を考える (共著) 2010年1月 株式会社ジーシー

*キャストブルゴールドアバットメントの技工操作 2010年4月 Japan-Medical-Materials Corporation

*問われるインプラント、チーム連携で安全・安心—患者を中心に据えた質の高いチーム医療のあり方—を考える (共著) 2012年8月 ザ・クインテッセンス

*生体と調和する歯周組織にやさしい歯冠修復物、その考え方とラボワーク.クインテッセンス出版 2014年6月